

「国語」（３学年）指導略案

単元・題材名	国語 接続語について知ろう	生徒	習熟度別クラスB ３年生（６名）
		場 所	美術室
日 時	平成２８年 １０月 ２５日 （火） ４校時	指導者	海田 健
単元の全体目標	○接続語について理解して、作文や礼状書きで活用することができる。		
本時の目標	・ 接続語の種類について知ることができる。 ・ 接続語を使用して文章を作ることができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 ５分	あいさつ 前時の確認 本時の説明	○担当の生徒が挨拶を行う。 ○前回まで行っていた敬語について確認する。 ○接続語の学習を行うことを確認する。	○挨拶を行う。 ○実習に向けて行っていた敬語について振り返りを行う。 ○本時から接続語の学習に切り替わることを確認する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 課題を解決するために、教え合ったり助け合ったりしていいことを確認する。(②) ・ 学習の進め方を順序立て、黒板に視覚的に提示する。(配慮⑮) ・ ワークシートの課題を全員で空欄を埋める。(①)	
展開 ３０分	漢字の小テスト	○漢字の小テストを行い、一人一問答えを黒板に記入。ペアでプリントを交換して答え合わせを行う。 ○小テストに出てきた漢字を用いて単語を作る。	○他の人に分かるように丁寧な字で書くことを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 字を書くときは仲間が読みやすいように丁寧に書く。(④) ・ 漢字が苦手な生徒は一問でも良いので書き、その問題に手を挙げて答える。(配慮③) ・ ペアの分の丸付けを行い、プリントの空欄や間違いを正してプリントを完成させる。(③)	プリント①

	接続語の学習 教師による説明	○例題を見ながら接続語の種類について知る。 ○学習プリントに取り組む。 ○答え合わせ	○黒板に例を示しながら、接続語の種類・役割について説明する。解説しながら一問例題を解く。 ○各自でプリントの空欄になっている部分を解いていく。他の人が見て分かるような字で書くよう指導する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・分からないことがあれば、教師が確認した際に意思表示することができる。(④) ・字を書くときは仲間が読みやすいように丁寧に書く。(④) ○全体で答え合わせを行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ・当てられた問題に対して、どのように考えて答えを導いたのかも合わせて答える。(②、④)	プリント②
整理 10分	まとめ・振り返り 次時の連絡	○まとめ、振り返り ○次時の内容を知る。	○本時の学習の様子を見て学習の取り組みについてコメントする。 <協同学習の要素や配慮事項> ・メンバー全員が達成感を感じられるように褒め方を工夫する。(配慮④) ○次時の取り組む内容を知る。 学校祭特別日課のため、次回は11月29日	

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 、 (②) … 対面的なやり取り 、 (③) … 個人としての責任
(④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑪) … 配慮事項については、マニュアルP8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

三学年 国語

名前

一.

次のカタカナを漢字になおしなさい。送りがあるものは付けなさい。

(1) チトセの航空ショーを見に行く。

(

)

(2) 北海道の最北端はワツカナイだ。

(

)

(3) ここがウデの見せどころだ。

(

)

(4) アシを高く振り上げる。

(

)

(5) 東京をカンコウする。

(

)

(6) 車が故障してボウソウする。

(

)

名前

○接続語とは

言葉と言葉、文と文、段落と段落をつなぎ、前後がどんな関係であるかを表す言葉。

○接続語の種類

前の文を理由・原因とする結果を表す。

（

）

前の文と対立・反対の意味がくる。

（

）

理由や説明の不足を満たすこと。

（

）

前後のどちらかを選ぶ。

（

）

問題

例題

一生懸命発表の練習をした。

（

）スムーズにできた。

①

アイスクリームが食べたい。（

）冷ぞう庫にはなかった。

②

来年の部活は野活にしようか（

）音楽部にするか迷う。

③

今日のお昼はハンバーグだと思った。（

）ピーマンの肉詰めだった。

④

遠足にはかさ（

）かっぱを持ってきたください。

⑤

紅葉の色といえば（

）赤や黄色が思いつく。

⑥

今日はとても良い天気になった。（

）布団を干した。

授業参観者アンケート

授業者：海田 健
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係
②対面的なやりとり
③個人としての責任
④協同学習スキル
⑤チームの振り返り
協同学習全体を通して

授業者：海田 健

協同学習（各要素）についての評価

①互恵的な相互依存関係

②対面的なやりとり

- ・漢字の学習を行っている時に助け合いができていました。
- ・漢字の丸付けを教員がするのではなく、生徒同士で行われていました。グループを変えるなど様々な変化も可能なため参考にしたいです。
- ・グループ内で交換して採点をさせていたのは良かったと思います。しかし、協同学習という観点で授業を進めていくのであれば、さらにそのグループ活動に深みをもたせるために、話し合いの活動やお互いに物事を教え合うような活動もあると、より深まったように感じました。
- ・分からない問題を話し合ったり、相談したりして答えを出したり、選択肢だけ出してどこに何が当てはまるか、グループで考えさせたりすると良かったのではないのでしょうか。
- ・漢字テストで交換して、採点までの流れができていて良かったと思います。

③個人としての責任

- ・分からない漢字に関しては、代表者が調べるという場面が作られていたため、必然的に調べる生徒は他の生徒の学習にとっても重要な役割となっていたところが良かったです。
- ・漢字テストの丸付けをすることで、正しい答えをきちんと理解しなければいけないという個人の責任ができていたところが良かったです。
- ・ペアで丸付けを行ったことで、個人の責任ややるべき役割となっていました。

④協同学習スキル

- ・指導案の「他の人に分かるように丁寧な字で書くことを伝える」の部分を聞き逃してしまいましたが、毎回伝えて、定着できるとよいと思いました。
- ・授業全般を通して、教師から言葉がけが丁寧に行われていたこともあり、「分かる」「分からない」という生徒の自主的な意見表示ができていた点が参考になりました。
- ・協同学習にあった「文字を書くときは仲間が読みやすいように丁寧に書く」という項目がありましたが、「丁寧」という言葉が教師の主観での評価になってしまうので、具体的に書いてあるといいと思います。今回であれば「仲間が読みやすいように」とあるので、それで十分だったかと思います。

⑤チームの振り返り

協同学習全体を通して

- ・②の対面的なやりとりについては、黒板に漢字の解答を書かせたときに、正解かどうか生徒が声を出しており、結果的にお互いへの声かけになっていたと思います。また、一人一問は担当することで「漢字のテストの解答を黒板に完成させる」という全員協力して行う場面になっており、①の関係の設定とな

っていました。

- ・もし今後の授業で内容を深めるのであれば、接続語を使った例文作りにペアやグループで取り組ませ、発表させるなどの展開もできる内容だと思いました。
- ・話し合いやグループ活動など、協同学習の要素をもっと入れられたら良かったと思いました。
- ・分からない問題を話し合ったり、相談したりして答えを出したり、選択肢だけ出してどこに何が当てはまるか、グループで考えさせたりすると良かったのではないのでしょうか。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・先生を含め、自由な発言ができる関係がとても良かったです。
- ・ペアでやっていたところは、やり方をしっかりわかってやっていたので良かったです。
- ・辞書を使用することで分からないことを自主的に調べるなどという習慣につながるような学習になっていると思います。
- ・時間がない中で活動を始めましたが、やはり導入についてはしっかり行うべきだと感じます。導入で今日の目標や授業の進め方を示すものだと思っているので、伝えるべきことはしっかり伝えるべきだと思います。それを伝えた上でどうしても時間が足りないのであれば、本時で行おうと思っていた活動を次時に変更するなどといったことも考えられるのかなと思います。
- ・緊張している、研究授業だからといって特別なこともなく普段通りの姿で授業ができる関係が良いと思いました。
- ・ワークシートと同じものを拡大して黒板に貼り、記入していくようにすると、生徒もどこに書くのか視覚的にわかりやすいと思います。
- ・漢字の「脚」の問題は、あの文では「脚」と答えを書けないと思いました。
- ・接続後の学習において、例えの出し方が生徒の実生活に結びついた内容でわかりやすかったです。
- ・接続後のワークシートの活用法として、接続後の種類を記入するのではなく、教師が口頭で伝えた例文を記入させることで実地的な使用につながりやすくなるのではと思いました。
- ・生徒たちも協力的で繰り返し活動を行っているのだと感じることができました。
- ・接続語ということで、普段日常的に使用している部分について観点をあて授業を行っていたと思います。あとは、今後の生活にどう般化させていくかが大切になってくるかと思います。
- ・漢字のテストの解答については、すぐに全員手を挙げていたので、定着している取り組みだと思いました。普段の授業で積み重ねた成果だと思います。
- ・自分で辞書を使用して調べさせることについても定着しているようで良かったです。一人が調べている時間に他の生徒には何をさせているのか（待たせている？）が気になりました。
- ・教師からの問いかけに活発に答える生徒がいて、発言しやすい雰囲気づくりができていました。一方で教師と生徒の会話のようなやりとりで授業が進んでいる印象もありました。発問の仕方、説明の仕方にメリハリをつけ、答えさせるところ、聞かせるところがわかるとよいと思います。また説明するときの言葉が多い（絞られていない）と感じました。（「みなさん」という回数が多い印象でした。必要のない言葉は削ぐ、という意識を持つとよいと思います。）接続語の例文で「〇〇くん、日直、号令」のあと、「〇〇くん、日直なので号令してください」としていた。（接続語の「なので」だけではなく「してください」も付け加えられていた）接続語を入れることでどう変わるかを説明するという、今回の学習内容の大切な部分であったのではないかと思います。重要な部分をどのような言葉で説明するのかは、できるだけシンプルにする、口調を変えるなど、「印象に残るように伝える」ための工夫が必要かと思います。

- **でも** **だから** ←これを縦書き このような感じの接続語を紙に書いたものを使い、黒板の文と文の間に貼ると、接続語がある場合とない場合の違いや、適切でない文章に入れた場合の不自然さなどを説明するときに使ったり、プリント問題の解答のときに使ったりできるのではないかと思います。
- 漢字の「脚」は、熟語で問題を出したり、「難しい方の脚だよ。」とヒントを出したりすると良かったと思います。
- 接続後の説明のときの文章が具体的で分かりやすかったです。
- 辞書を配布するとき、「僕やります」の姿勢ができていてさすが3年生だと思いました。
- 小テストのやり方として、机上整理をさせます。机上には、鉛筆と消しゴムのみ。プリントの配布。鉛筆を持って、氏名記入、鉛筆を置かせる。全体確認をして「始めてください」で一斉に取り組ませる。キッチンタイマーなどを使い時間の計測をします。時間が来たら「やめてください」。交換してくださいと、行くと授業の流れがスムーズに行くと思います。
- 漢字を正しく示すとよいと思いました。ワードアートの活用か赤チョークを使い、手書きで板書するとよいと思いました。黄色と白チョークでは、色が重なって、見えにくいと指導を受けたことがありました。
- 説明を行うときは、丁寧語を使った方がよいと思います。
- 早口にならないように、落ち着いて、ゆっくりした口調で説明するとよいと思いました。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	国語 「接続語について知ろう」	生徒	習熟度別クラス 3年生6名
		場所	美術室
日時	平成28年10月24日（火）4校時	授業者	海田 健
毎時間、授業の最初に行っている漢字テストでは、「②対面的なやりとり」を取り入れて自分の解答をペアの人と交換して丸付けを行った。分からない漢字の部分に正しい漢字を記入して教え合ったりすることができた。 その中で、「③個人としての責任」として漢字を丁寧に書くということを意識させて取り組ませた。自分自身で丸付けをしてしまうと、見るのは自分なので雑な字になる生徒が多い。そのため、ペアで解答用紙を交換して、相手に分かるように意識させて取り組ませることで丁寧な字を意識して書く様子が増えてきている。また、空欄や間違いがあった場合には正しい漢字を書くという部分も個人としての責任に繋げることができた。 漢字テストや接続語のプリントを完成させる際に、個人でわからない部分は全体に問いかけて答えを教え合ったり、全体で分からない問題があれば調べ合ったりしてプリントを完成することができ、「①互恵的な相互依存関係」を取り入れて授業を進めることができた。反省として、授業を組み立てる際に狙っていたことではなかった。結果的に生徒が教え合い、互恵的な関係になることができたが、意図的に取り入れて 「④協同学習スキル」の要素はあまり取り入れることができなかった。ペア学習がメインとなりグループで協力したり意見を交換したりする場面が少なかった。接続語のプリントを完成させるために意見を出し合い、話し合う場面を設定する必要があった。そのためには、接続語のプリントの難易度を上げて違う答えが出る要素を作り出す必要がある。単元の最初の方であったので、理解させようと間違えないようにと考えてしまっていた。 辞書を配ったり、積極的に手を挙げたり生徒の自主性を引き出すことはできた。例題を生徒の身近なものにすることで、理解しやすい内容にすることができた。しかし、全体的に協同学習の要素が少ないと感じた。今後は、ペア学習だけではなくグループや全体での活動を取り入れ、教え合ったり意見交換したりする学習を取り入れていこうと思う。			

1 学年 国語学習指導案

月 日	平成28年10月26日(水)
場 所	1年産業科教室
時 間	11:30 ~ 12:15(45分)
対 象	1学年
指導者	渡邊 雅都

1 題材名 「同音異義語を知ろう」

2 生徒の実態

本学年の国語の授業は、1学期と3学期の週2単位の国語の時間のもち方を習熟度別の授業(5グループ編)と一斉授業形式の授業を1単位ずつ行っている。また2学期の国語については、個々の課題に対応するため、2単位とも習熟度別の授業(5グループ編成)を行っている。

本グループのメンバーは産業科4名、農業科A組2名、農業科B組1名、生活家庭科1名【入学時のプレテストの結果で見ると本学年の上位層(上から2番目)】の8名で、IQ66~104までの生徒で構成されている。障害の種別についても自閉症(3)、広汎性発達障害(1)、適応障害(1)、コミュニケーション障害(1)と多岐にわたり、プレテストの点数には現れていないそれぞれの課題が鮮明になってきている。

本グループの実態として自分の意見をもつ生徒はいるが、「自信のなさ」や「自己肯定感の欠如」、「語彙の乏しさ」、「コミュニケーションを円滑にとるための集団経験」が少ないなど様々な理由で、自分から意見を周囲に発信することができていない生徒が多く、国語の授業を通して自ら集団の中でコミュニケーションが取れる生徒を育成したと考えている。

これまでの学習の中で、音読や暗唱、自己紹介を学年全体の前でする学習や作文を書いて発表する学習を行い、自発的にコミュニケーションをとる力をつける学習を積み重ねてきた。しかし、上記の理由が重なり合っているために、思うような成果が上げられていないのが現状である。

3 題材について

本題材では、上記の様々な原因の中からこれまで取り扱う機会があまりなかった「語彙の乏しさ」について取り上げる。国語の学習の中で語彙の幅を広げながら様々な表現方法を知ること、自分なりの表現ができるようになると考えている。いくつかの表現方法ができれば、経験を重ねることで自信をもって自発的に周囲に自分の考えを主張するきっかけになると考える。そこで今回の研究授業では、「同音異義語」について学習を行う。理由として夏休みの課題の中で小学校中学年レベルの漢字の書き取りを行った際、同音異義語の理解ができていないので、同じ間違いをする生徒が多かったことから、「同じ読み方の漢字が複数あることを知ること」「同じ読み方だが意味が異なっているので、使い方も異なること」を本題材で伝えていきたい。

4 単元の全体目標

- ・漢字の学習を通して、生活に必要な読み・書きが正しくできる。
- ・普段の生活の中でよく使う言葉の意味や用途を正しく知り、違う表現の仕方があることを知る。
- ・学習の中で、自分の考えを表現することができる。

5 指導計画

	日 時	学習内容	目 標	使用教材
1	平成 28 年 10 月 5 日 (月) 3 校時	「漢字の学習」	・夏休み課題の解答をしながら、正しい漢字の読み方や書き方について理解することができる。	夏休みの課題プリント
2	平成 28 年 10 月 17 日 (月) 3 校時	「同音異義語を知ろう①」	・夏休み課題の解答の中で、同音異義語を見つけることができる。 ・見つけた同音異義語を仲間に伝えることができる。	夏休みの課題プリント
3	平成 28 年 10 月 19 日 (水) 3 校時	「同音異義語を知ろう②」入門	・同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 ・同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその言葉の意味に合わせて使い方もかわることを理解することができる。 ・グループ内でよりよい問題をつくるために話し合いを行い、自分の意見をグループの仲間に伝えたり、自分の役割を果たしたりすることができる。	ワークシート①
4 本時	平成 28 年 10 月 26 日 (木) 3 校時	「同音異義語を知ろう③」応用	・同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 ・同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその言葉の意味に合わせて使い方もかわることを理解することができる。 ・グループ内でよりよい問題をつくるために話し合いを行い、自分の意見をグループの仲間に伝えたり、自分の役割を果たしたりすることができる。	ワークシート①(裏表)
5	平成 28 年 10 月 31 日 (月) 3 校時	「まとめの学習」	・学習した漢字や同音異義語を使って例文を書くことができる。	

6 本時の全体目標

- ・同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。
- ・同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその言葉の意味に合わせて使い方もかわることを理解することができる。
- ・グループ内でよりよい問題をつくるために話し合いを行い、自分の意見をグループの仲間に伝えたり、自分の役割を果たしたりすることができる。

7 本時の展開

(1) 個別目標

名前	単元目標	本活動に対する実態	本時の目標	手だて	評価
A	・漢字の学習を通して、生活に必要な読み・書きが正しくできる。 ・普段の生活の中でよく使う言葉の意味や用途を正しく知り、違う表現の仕方があることを知る。 ・学習の中で自分の考えを表現することができる。	・小学校中学年レベルの漢字の読み書きについては、おおかたできている。 ・同音異義語については、理解している部分とできていない部分がある。 ・慣れた環境の中では、自分の意見を積極的に周囲に発信することができる。	・同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 ・同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその意味に合わせて使い方も変わることも学習を通して知ることができる。 ・問題に相応しい同音異義語を選択し、グループの中で中心的な役割を果たしながら問題を作成することができる。	・夏休みの宿題の中から例を示して同音異義語に触れる。 ・自分のグループの中で問題を作成する過程で、辞書を使って意味や用途を調べさせる。 ・活動の際、リーダーであることを伝え役割分担をさせながら、グループ内でコミュニケーションを取るよう促す。	
B	・漢字の学習を通して、生活に必要な読み・書きが正しくできる。 ・普段の生活の中でよく使う言葉の意味や用途を正しく知り、違う表現の仕方があることを知る。 ・学習の中で自分の考えを表現することができる。	・小学校中学年レベルの漢字の読み書きについては、おおかたできている。 ・同音異義語については知っているが、意味の違いや用途の理解し、活用するところまでには至っていない。	・同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 ・同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその意味に合わせて使い方も変わることも学習を通して知ることができる。 ・問題に相応しい同音異義語になるようにグループ内で意見を出して問題を作成することができる。	・夏休みの宿題の中から例を示して同音異義語に触れる。 ・自分のグループの中で問題を作成する過程で、辞書を使って意味や用途を調べさせる。 ・複数の同音異義語について、自分の担当する語句を決め、集団の中で調べたことを述べる機会を設定する。	
C	・漢字の学習を通して、生活に必要な読み・書きが正しくできる。 ・普段の生活の中でよく使う言葉の意味や用途を正しく知り、違う表現の仕方があることを知る。 ・学習の中で自分の考えを表現することができる。	・漢字検定3級を取得しており、漢字の学習については自信があるので、発言なども普段と比べて積極的にできている。 ・漢字を知識としては覚えているが、意味に応じて使い分けるところまでには至っていない。 ・基本的に自分の考えを積極的に表現するタイプではないが、得意なことは意欲的になれるところがある。	・同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 ・同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその意味に合わせて使い方も変わることも学習を通して知ることができる。 ・問題に相応しい同音異義語になるようにグループ内で意見を出して問題を作成することができる。	・夏休みの宿題の中から例を示して同音異義語に触れる。 ・自分のグループの中で問題を作成する過程で、辞書を使って意味や用途を調べさせる。 ・複数の同音異義語について、自分の担当する語句を決め、集団の中で調べたことを述べる機会を設定する。	
D	・漢字の学習を通して、生活に必要な読み・書きが正しくできる。 ・普段の生活の中でよく使う言葉の意味や用途を正しく知り、違う表現の仕方があることを知る。 ・学習の中で自分の考えを表現することができる。	・指示を理解するのに時間がかかるので、問題に取りかかるまでに間が空くことがある。 ・夏休みの課題の取り組み状況は良好で、大きな字で見やすく書くことができている。 ・同音異義語については知っているが、意味の違いや用途の理解し、活用するところまでには至っていない。	・同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 ・同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその意味に合わせて使い方も変わることも学習を通して知ることができる。 ・問題に相応しい同音異義語になるようにグループの中で話し合いに参加し、自分の役割を果たすことができる。	・夏休みの宿題の中から例を示して同音異義語に触れる。 ・自分のグループの中で問題を作成する過程で、辞書を使って意味や用途を調べさせる。 ・リーダーを中心とした話し合いの中で、自分の役割を理解しているかを確認する。	

E	- 漢字の学習を通して、生活に必要な読み・書きが正しくできる。 - 普段の生活の中でよく使う言葉の意味や用途を正しく知り、違う表現の仕方があることを知る。 - 学習の中で自分の考えを表現することができる。	- 中学校に通うことができていなかったのに、小学校低学年レベルの漢字の読み書きについて正しく理解できていないが、それを自覚し、学習に取り組むことはできている。 - 同音異義語については知っているが、意味の違いや用途の理解し、活用するところまでには至っていない。	- 同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 - 同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその意味に合わせて使い方も変わることも学習を通して知ることができる。 - 問題に相応しい同音異義語を選択し、グループの中で中心的な役割を果たしながら問題を作成することができる。	- 夏休みの宿題の中から例を示して同音異義語に触れる。 - 自分のグループの中で問題を作成する過程で、辞書を使って意味や用途を調べさせる。 - 活動の際、リーダーであることを伝え役割分担をさせながら、グループ内でコミュニケーションを取るよう促す。	
F	- 漢字の学習を通して、生活に必要な読み・書きが正しくできる。 - 普段の生活の中でよく使う言葉の意味や用途を正しく知り、違う表現の仕方があることを知る。 - 学習の中で自分の考えを表現することができる。	- 小学校中学年レベルの漢字の読み書きについては、おおかたできている。 - 同音異義語については知っているが、意味の違いや用途の理解し、活用するところまでには至っていない。	- 同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 - 同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその意味に合わせて使い方も変わることも学習を通して知ることができる。 - 問題に相応しい同音異義語になるようにグループの中で話し合いに参加し、自分の役割を果たすことができる。	- 夏休みの宿題の中から例を示して同音異義語に触れる。 - 自分のグループの中で問題を作成する過程で、辞書を使って意味や用途を調べさせる。 - リーダーを中心とした話し合いの中で、自分の役割を理解しているかを確認する。	
G	- 漢字の学習を通して、生活に必要な読み・書きが正しくできる。 - 普段の生活の中でよく使う言葉の意味や用途を正しく知り、違う表現の仕方があることを知る。 - 学習の中で自分の考えを表現することができる。	- 小学校中学年レベルの漢字の読み書きについては、おおかたできている。 - 同音異義語については知っているが、意味の違いや用途の理解し、活用するところまでには至っていない。	- 同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 - 同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその意味に合わせて使い方も変わることも学習を通して知ることができる。 - 問題に相応しい同音異義語になるようにグループ内で意見を出して問題を作成することができる。	- 夏休みの宿題の中から例を示して同音異義語に触れる。 - 自分のグループの中で問題を作成する過程で、辞書を使って意味や用途を調べさせる。 - 複数の同音異義語について、自分の担当する語句を決め、集団の中で調べたことを述べる機会を設定する。	
H	- 漢字の学習を通して、生活に必要な読み・書きが正しくできる。 - 普段の生活の中でよく使う言葉の意味や用途を正しく知り、違う表現の仕方があることを知る。 - 学習の中で自分の考えを表現することができる。	- 小学校低学年レベルの漢字の読み書きについてはおおかたできているが、中学年レベルの問題になると空欄や誤りが多くなる。 - 同音異義語については知っているが、意味の違いや用途の理解し、活用するところまでには至っていない。	- 同じ読み方をする漢字が複数あることを知ることができる。 - 同じ読み方をする漢字でも意味が異なることやその意味に合わせて使い方も変わることも学習を通して知ることができる。 - 問題に相応しい同音異義語になるようにグループ内で意見を出して問題を作成することができる。	- 夏休みの宿題の中から例を示して同音異義語に触れる。 - 自分のグループの中で問題を作成する過程で、辞書を使って意味や用途を調べさせる。 - 複数の同音異義語について、自分の担当する語句を決め、集団の中で調べたことを述べる機会を設定する。	

(2) 協同学習の観点

- ①「互恵的な相互依存性」 ②「対面的なやりとり」 ③「個人としての責任」
④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」

本時では、これまでの学習で出てきた同音異義語の中から問題に適したもの2つ(時間次第で4つ追加)について取り上げ、グループで楽しく学習できるようにクイズ形式で学習を進める。問題を教師が用意するのではなく、どのような工夫をしたら良い問題になるかをグループで考えて問題を作る活動の中に、協同学習の要素を取り入れる。調べる辞書についてもそれぞれに違う種類の辞書を配布して、表記や表現の違いをもたせることで、自分しか知り得ない情報をグループの中に示せるようにしたい。また発言力に大きな差があるので、発言力のある生徒にはリーダー的な役割を与え、全員に意見を聞きながら上手く話し合いを進むように教師がサポートしながら学習を進めていく。

(3) 本時の展開

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (5分)	挨拶 前時の復習	- 代表者に合わせて挨拶をする。 - 同音異義語とは何なのかを挙手で発言する。 - 以前に扱った同音異義語を振り返る 「しぼう」「てんこう」 「かんしょう」「たいしょう」 「おさめる」「いる」 など	- 代表者に号令を促す。 「同じ読みで意味が異なる言葉」であることを挙手で確認する。 「しぼう」「てんこう」など以前取り扱った同音異義語について思い出させる。	
	本時の学習	- 本時の目標の確認とグループ学習の際の鉄則について確認する。 - 本時の学習内容を知る。 1、指定された同音異義語についての問題作りをグループで行い、相手チームに出題する。 2、本日学習した同音異義語について、プリントにまとめる。	- 本時の3つの目標とグループ学習の際の鉄則について模造紙に貼って提示する。(④) 〈協同学習の要素と配慮事項〉 グループ学習の際の注意事項・配慮事項を全体に示す。 (配慮事項⑤・⑥・⑨) - 解答は3ステップで行う。各段階で提示するヒントの範囲や段階ごとに1～5の点差	○目標提示用模造紙 (資料1)

		※1以降、時間の都合上、難しければ振り回りも含め次回に行う。(45分授業のため)	があること、早い段階で解答するほど点数が高いことを確認する。 ステップ1：意味と文例(5点) ステップ2：3～4の選択肢から選ぶ(3点) ステップ3：2分間辞書で調べる(1点) ○ 問題を設定する際、生活の中で良く目にする語句を選択し、相手が迷いそうな問題になるよう必ず教師にアドバイスをもらうように伝える。	
展開 (30分)		○ 指定された同音異義語について、グループの中で分担して全ての語句についての意味を調べる。自分の調べた語句をWSに記入する。 ○ 調べた語句について、その内容をグループ内で交流する。役割分担の中で余った時間があれば、みんなの調べた内容を自分のWSに記入する。 ○ 複数の同音異義語の中で答えにする語句を1つ話し合いで決め、その意味と、例文をフリップに記入する。完成後、他のグループは、出題を聞いて回答を話し合いで決めて解答をミニWBに記入する。 ○ 間違えた場合、出題者は答えが含まれる複数の選択肢をフリップに書き、選択させる。 ○ それでも間違えた場合は、辞書で2分間調べてもらう。 ※ この流れで2グループとも問題を 出題し合い、相手グループからの出題に答える。	○ ワークシートの配布。 ○ リーダーに出題するお題を伝える。 1G「とる」 2G「かえる」 ○ グループ学習に取り組ませる(①・②) 〈協同学習の要素と配慮事項〉 仲間同士で分担して、問題を作るための調べ活動や話し合いをさせる。 (配慮事項⑤・⑥・⑨) ○ 役割を明確にさせる(③) 〈協同学習の要素と配慮事項〉 ・リーダーを中心に調べる語句を振り分けて、見やすくWBに記入をするなど問題を分かりやすく提示するように指導する。(配慮事項⑤・⑥) ○ 問題にする語句を選択する際、どうしてその語句を問題に選んだのかをできるだけ理由を付けて交流するよう促す。 ○ 意味は赤・文例は青で書かせる。 ○ WBに問題を記入する人がやりやすいように周りの人は自分の調べた事を見せたり、場所を確保したりなど協力するように促す。	○ プリント 「同音異義語を知ろう」 ○ フリップ(WB) 各グループにつき2枚 ○ マーカー(赤・青・黒) ○ 辞書 グループにつき4冊 (全8冊)
整理 (10分)	まとめ 次回予告 挨拶	○ 下記2点について理解できているかワークシートの穴埋めをする。 ① 生活の中には、たくさんの(同音異義語)が存在していること。 ② 読みは同じでも、(意味)や(用途)が違う。 ○ 次回の授業内容・持ち物の確認 ○ 代表者に合わせて挨拶をする	○ ()の穴埋めをした後、今日の学習で習った同音異義語についてもまとめさせる。 〈協同学習の要素と配慮事項〉 全員が達成感を感じられるほめ方を工夫する。(配慮事項④) ○ 評価の際、チームの取り組み状況についても振り返る時間を設定する。(⑤) 〈協同学習の要素と配慮事項〉 グループ活動の振り返りをする時間を設定する。(配慮事項⑥・⑦) ※時間がなければ、次回の授業で行う。 ○ 代表者に挨拶を促す。	○ プリント 「同音異義語を知ろう」 裏面

8 評価

(1) 学習の評価

ア 本時の全体目標は達成されたか。

イ 個別目標の評価は達成されたか。

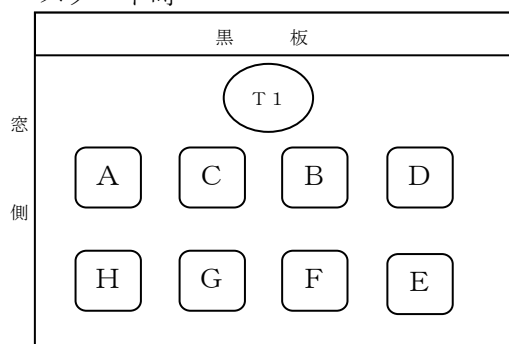
(2) 授業の評価

観 点			評 価			
授業 の 設 計	① 学習指導案に適切な内容が盛り込まれていたか。					
	② 目標・手立ては明確になっていたか。					
	③ 導入・展開・整理の流し方や、時間配分は適切であったか。					
	④ その他					
授業 の 展 開	① 生徒の学習に取り組む姿は自ら学ぶものになっていたか。					
	② 全体・個別に対する働きかけは適切であったか。					
	③ T Tのあり方（役割の明確、位置等）は適切であったか。					
	④ 教材・教具は適切であったか。					
協 同 学 習	①	「互恵的な相互依存性」	A	B	C	D
	②	「対面的なやりとり」	A	B	C	D
	③	「個人の責任」	A	B	C	D
	④	「協同学習スキル」	A	B	C	D
	⑤	「チームのふりかえり」	A	B	C	D

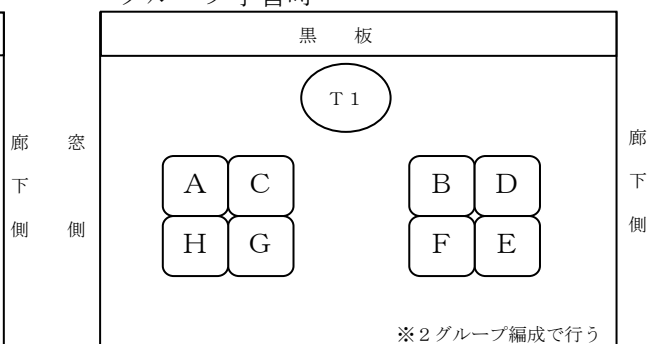
※A～よくできた B～おおむねできた C～少しだけできた D～十分ではない

9 配置図

スタート時



グループ学習時



10 資料

別紙参照

「同音異義語を知ろう」

1 学年国語「産業科グループ」

今日の学習の目標

- ① 同じ読み方をする漢字が**複数**あることを知る。
- ② 同じ読み方をする漢字でも**意味**が異なることや、その言葉の意味に合わせて**使い方**もかわることを理解する。
- ③ グループ内でよりよい問題をつくるために話し合いをして、**自分の意見をグループの仲間に伝えたり**、自分の役割を理解して良い問題を作る。

1 今日のお題 についての問題を作る。

お題について同音異義語と意味を全て記入してください。

①		…意味	
②		…意味	
③		…意味	
④		…意味	
⑤		…意味	
⑥		…意味	

2 問題の解答にする語句は ※グループ内の話し合いで決める事

ホワイトボード(大)に書くこと

意味

文例

語群 ① _____ ② _____ ③ _____
④ _____ ⑤ _____

※ひらがなで書くこと、黒ペンで大きめに書く

※赤ペンで書くこと

※青ペンで書くこと

※黒ペンで書くこと

ステップ 1
はじめはここまで書く
答えられたら
(5点)

文例の中のお題も
必ずひらがなで書く

ステップ 2
ステップ1で答えられ
なかったら選択肢を書
くこれで答えられたら
(3点)

ステップ 3
辞書で調べて解答する(1点)

まとめ

今日学習した^{どうおん い き こ}同音異義語は

学習した同音異義語の^{しゅるい}種類には

※学習したものを全て書きましょう

があります。

※学習した同音異義語を全て書きましょう

① 生活の中で良く出てくる同音異義語は

ある。

② 同じ読み方をするが、

は^{こと}異なっているので

※「ちがっている」という意味

も違う。

例) しぼう (死亡・志望 など)

- ・火災が発生し、その建物にいたたくさんの人が (死亡) した
- ・進路先として2年半後、一般就^{いっぱんしゅうろう}労を志望します。

宿題

今日学習した

と

の同音異義語の中で、好きなものを

一つ選んで、その同音異義語を使って例文を作ってみよう

今日学習した同音異義語の中で、自分が選んだ同音異義語は

→同じ読み方をする同音異義語には

がある。

※学習したものを全て書きましょう

→その中から

についての例文考えよう

例文

今日の学習の目標！

- ①同じ読み方をする漢字が**複数**あることを知る。
- ②同じ読み方をする漢字でも**意味**が異なることや、その言葉の意味に合わせて**使い方**もかわることを理解する。
- ③グループ内でよりよい問題をつくるために話し合いをして、自分の意見をグループの仲間に伝えたり、自分の役割を理解して良い問題を作る。

グループ学習時の鉄則！

- ①リーダーを中心に、役割を明確に決め与えられた役割や責任をしっかりと果たすこと。終わったらリーダーにそのことを伝えること！
- ②自分の役割を果たすことでグループ(チーム)が成果をあげないという意味がないので、自分はチームの一部であることを忘れるな！
(自分本位×、独りよがり×、無関心×、非協力×)

授業参観者アンケート

授業者：渡邊 雅都
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係 ・目標や役割が明確で、フレームができていました。 ・指導者の「みんながチームの一員だぞ。」という言葉がけが、各生徒の意識付けとなりそれぞれどのような働きをしたら良いかを分かりやすく理解させ、確認をして話し合いができていたように思いました。 ・グループで問題を協力して作る活動→問題を協力して答える活動と工夫されていました。
②対面的なやりとり ・学習目標の提示が授業の最初にされていることでグループの話し合いの目的が明確になっていました。このことからグループでの対面的なやり取りも話題から外れることなくスムーズに行われており、参考になりました。
③個人としての責任 ・リーダーの役割が明確であったため、スムーズに声の掛け合いができていたと思います。Uくんが特にしっかりと仕事を理解していたため「次に、誰が、何をするのか」と指示を出していました。 ・役割を与えることで、生徒が主体的に動いていました。 ・リーダーの役割とフォロワーの役割を明確にすることでチームの中で助け合いの雰囲気できていました。特に印象に残ったのは、戸惑っている仲間に気づいた生徒がリーダーにフォローするように提案しており、協力することができていた場面です。 ・グループの中での話し合いに積極的に参加することができなかった生徒がホワイトボードの内容を代表して読むなど各場面で個人の責任を与えられる場面設定があったところが良かったです。 ・③の役割を明確にさせるでは、リーダーを中心に役割が明確に決められていたため、グループ内での話し合いがスムーズに行われていたように思います。またリーダーもグループメンバーに一人一人声を掛けるなどの、声かけができていて大変良かったと思いました。リーダーが変わるとどのような活動になるのかを今後試してみても面白いのかなと思いました。 ・リーダーの役割、他のグループのメンバーの役割が明確に提示されており、グループ内で分担しやすく工夫されていました。
④協同学習スキル ・授業の中で声を掛け合う場面が多く設定されていたことで、片付けのときにも自ら声を掛け合う姿が見られました。 ・話し合いをたださせるのではなく、ルールへの提示や方法の提案を教員がしっかりとすることで生徒の活動に迷いが少なく、自主的な活動になっていると感じました。グループ活動がはじまった時には、リーダーだけに負担がかかる活動になっていると感じる部分もありましたが、適宜フォロワーの生徒に対しても「返事をする」「意思表示をすること」というアドバイスが教員からあったことにより、活動がスムーズに行われていることが参考になりました。

- ・グループ交流の中で、どのように考えたのかなどもあっても良かったと感じました。
- ・「グループ学習の鉄則」が提示されていたことで、話し合いに必要な態度や能力を生徒達が理解し実践できていた点が参考になりました。
- ・協同学習の要素④の「協同学習スキル」が指導案では明確ではありませんでした。「④」の記載のある内容は当該要素には該当していません。
- ・授業展開上、次のような協同学習スキルを使って生徒が活動する場面を設定することができると思います。

「自分なりの見方で、何かについて考えることができる。（着目する）」

「二つのもの（こと）の同じところや違うところを比べることができる。（比較する）」

「表現や内容について、意見や感想を持つことができる。（評価する）」

- ・協同学習の要素の④については、考えるスキル、集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有のスキルを鍛えていくことが大切であると思います。

⑤チームの振り返り

- ・お互い聞き合ったり、伝えたりと会話がよくあり、コミュニケーションがとても多いように感じました。時間が5分と短いということもありましたが、チームの振り返りをやったときに生徒からどのような意見や考えが出てくるのか気になりました。
- ・ワークシートにより、自分たちが本時で何を学習したのかを振り返ることができており、1時間の内容がきちんとまとめられていたと思いました。

協同学習全体を通して

- ・最初にルールを明確にすることで生徒がグループで話し合うような環境を整えていた。また、生徒自身もそれを意識して取り組めていました。
- ・授業の始めにグループ、チームとして取り組むことを強く意識付けできる言葉がけがなされており良かったです。
- ・教師の事前の言葉がけが的確で、グループ活動が始まると①～④の協同学習の要素が概ね含まれている活動となっていました。
- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすかったです。ただ、学習指導案では協同学習の観点は、「①互恵的な相互依存性」、「②対面的なやりとり」、「③個人としての責任」、「④ソーシャルスキル」、「⑤チームの振り返り」となっていました。今年度は、昨年度とは異なり用語が見直されています。

①「互恵的な相互依存性」→「互恵的な相互依存関係」

④「ソーシャルスキル」→「協同学習スキル」

今年度、④はソーシャルスキルだけに限定しないで、実際に活用される考えるスキルも含めて「協同学習スキル」としていますので、使用に当たっては留意が必要です。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・初めは緊張していた生徒がグループ活動になると、楽しそうに会話していたことが印象的でした。
- ・本時の内容を確認した際、ほとんどの生徒が理解していました。前回の授業で終末のまとめ、次回予告が行われているのだと思いました。
- ・ホワイトボードを大きい物、小さい物をそれぞれ1つずつ使用していましたが問題提示用の大きいホワイトボードは、記入の仕事が明確に示されていたため、話し合いに時間をかけることができました。
- ・ワークシートが分かりやすく、記入しやすく作成されていました。
- ・ゲーム形式にすることで、生徒が楽しみながら授業を行っていました。
- ・視覚的に目標を提示することで生徒も分かりやすく、意識して取り組めたと思います。
- ・辞書を4種類準備することで様々な意味や使い方を調べることができました。
- ・使い方を示したことで、より理解が深まったと思います。
- ・WBをチョーク受けの部分に立てかけておくと見やすかったかと思います。
- ・話し合いが行われたときに、BDEFのグループのリーダーがどうすればいいのか分からず、話が止まっている状態だったが、すかさず言葉がけがされており良かったです。その際に、教師主導になるのではなく、しっかりとリーダー主導となるようにも言葉がけがされていたので良かったです。
- ・授業の雰囲気が良く、生徒が楽しそうに取り組んでいる様子が見られて良かったと思いました。
- ・問題を考えて出し合うといったゲーム方式になっていたのも、生徒も取り組みやすい内容であったと感じました。
- ・本時の目標とグループ学習の際の鉄則について扱う場面では、分かりやすく丁寧に指導しており、良かったです。
- ・学習プリントに学習の目標、問題文と回答スペースが用意されていて、生徒が取り組みやすい教材の扱い方になっていました。
- ・ほとんどの生徒がファイルの上に辞書を置いて、ワークシートを記入しやすいように、作業スペースを確保していましたが、一人はそうではありませんでした。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	総合「壁新聞を作ろう」	生徒	産業科グループ8名
		場所	産業科1年教室
日時	平成28年10月26日（水）4校時	授業者	渡邊 雅都
協同学習の要素を取り入れて授業をすることで、効果的な部分と効果が上がっていない部分があったのでそのことについてまとめました。 （１）効果的な部分 ①能力差が大きい本校の生徒の実態を踏まえ、グループ学習など集団活動を取り入れることで、他者の良いところを吸収し、自らに役立てることができる。 （具体的に） ・グループ学習の際、役割を明確にすることで次に違う役割にあたった時に良い見本の記憶をたどって自らにフィードバックできる。（あのとき〇〇が～～やっていたから自分も今回はその役なのでやってみよう など） ②作業学習や生単などで指導している「集団の中で自分の役割を見つけてその役割を果たす」といった要素が教科（国・数など）指導の中でも共通してできる。 （具体的に） ・「〇〇を達成する」という目標の中で、グループ内で役割分担をするので、やることが分かれば「～～やります」とか「～～を今やっているから□□頼める？」などのやりとりがグループの中でできる。 （２）効果的でない部分 ①グループで活動をするのが多くなるので、能力の高いものの意見に話し合いが偏る傾向があり、少数意見が反映されにくい。 （具体的に） ・グループの中で能力的に下・もしくは真ん中の生徒にリーダーをやらせたとしても影響力のある生徒が意見を集約していく（能力の高いものの意見の方が効率的で賛同を得られやすい）かたちになってしまう。 ②教科（国・数など）指導の場合は、集団活動やスキルの前にしっかりとした知識を学習させることが本業なので、できる生徒の方に意見が寄せられてできていない生徒もできているように見えてしまうことが、生徒一人一人の個別の課題に対応する学習に向いていない。 （具体的に） ・話し合いや討議をグループでする過程には意味があるが、それはあくまで手段なので本来の教えなければならないことがぶれてしまったり、抜け落ちてしまうことがある。また、グループで成果を出す学習によって、生徒一人一人の見取りが曖昧になる。			

まとめ2

学習を振り返る

「チームの振り返り」

- 分担 梅チーム できていた。リーダーをまねがしていた。
竹チーム 名前がよかったです。発表する人が同じ人だった。
- 問題のレベル 梅チーム 少し難しくなった。(捕る)→(取る)
竹チーム ちゃんとよかったです。難しいレベルで良かった。
- 発表の仕方: 客に見られるという意識。
梅チーム 同級人が発表してきた。言いたいことが少なかった。
竹チーム 発表の仕方が変わった。言いたいことが少なかった。
- チームとして 点 梅チーム 59点(本60.古70.梅49)
竹チーム 41点